

グローバルな視点から生徒を育むESD活動

北海道教育大学附属札幌中学校 佐々木 貴子

担当者名 柏 敬太

1 活動の趣旨

本校は、小中一貫で「グローバルな視点」からの児童・生徒の育成を目指しており、学習指導要領に示されている持続発展教育を実施しているが、各教科等の学びを統合したり、有機的に関連付けたりすることを意図的に行っている。そうすることで生徒自身が持続可能な社会の構築に向けて当事者意識をもつものとする。

それには、教科等で培った持続発展教育に関する知識・理解等を、総合的な学習の時間や特別活動の時間を利用して行動化することが大切である。教育活動全体で持続発展教育に向かう共通理解を、生徒と教師、保護者、地域・社会に図ることになるからである。必要な教育資源（様々なネットワーク、実践資料等）を獲得し、その意義を共通理解しながら生徒とともに活動に取り組んでいる。一端を以下に報告する。

2 活動計画

(1) 平和・人権

- ・長崎大学教育学部附属中学校との交流
- ・生徒会役員会の世界寺子屋運動への継続的な参加

(2) 環境

- ・有志によるGTU(ゴミ対策ユニット)活動として、通学路約2.5kmの範囲のゴミを拾った。
- ・地域の自然を大切にするための環境活動（総合的な学習の時間、学校宿泊学習におけるクリーンプロジェクト）：1年生
- ・生徒会厚生委員会のペットボトルキャップ、リングプル回収。リサイクル委員会の牛乳パック回収。

(3) 防災

- ・地域を探索し、地域の自然や人との関わり、防災の視点を取り入れた調査活動を実施（総合的な学習の時間）：1年生

(4) 異文化理解

- ・生徒会体育委員会による諸外国の伝統的なスポーツを紹介するポスターの掲示や、生徒会保健委員会による世界の風邪予防法ポスター

※すべてに関わる内容として第3学年総合的な学習の時間「リレイト」、委員会・専門局会における「ユネスコスクール活動」

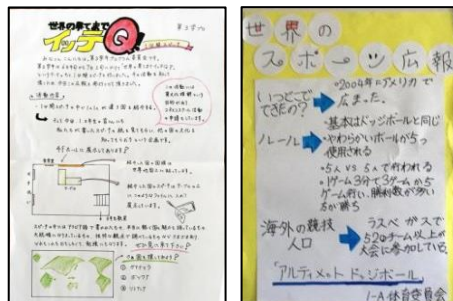
3 活動事例

①生徒会活動におけるユネスコスクール活動：全学年

本校は、生徒会活動において、ユネスコスクールの4つの基本分野に基づいた委員会活動を推進している。具体的には、「ユネスコスクール活動認定」として、ユネスコスクールの4つの基本分野に基づいた委員会の活動を表彰し、全校にユネスコスクールの理念および取組について校内放送等を通じて発信している。

- (例) 諸外国の伝統的なスポーツを紹介するポスターの掲示
- 外国の魅力を語る1分間スピーチ
- 給食で使用する牛乳パックのリサイクル
- 学校図書館におけるESD特設コーナー

【生徒作成のポスター】



②社会参画力を育む総合的な学習の時間の実施：全学年

社会参画力を育成する総合的な学習の時間を実施している。生徒は、自らの興味・関心に基づいた課題を設定し、インタビュー活動や他者に発信する探究的な学習を行っている。

第3学年では、ジェンダー・環境・異文化理解等、ユネスコスクールの4つの分野とも関連の深いテーマについて研究する生徒も多い。1年間の学習を終え、生徒は、主体者意識をもち、理想とする社会の実現のために自分たちにできることを具体的な行動で述べてようとしていた。



【総合交流会の様子】

③旅行的行事におけるESDとの関わりを意識した学習：全学年

第1学年では防災・地域、第2学年では防災、第3学年では平和に対する理解を深められるような旅行的行事を実施している。例えば、第3学年では長崎への修学旅行において、長崎大学教育学部附属中学校との交流や被爆体験者講話など、平和に対する理解を深める学習を継続的に実施している。



【学校宿泊での防災シミュレーションの様子】

4 成果と課題

昨年度より実施している、生徒会活動の取組のうち、ユネスコスクールの理念に沿った取組を認定する「ユネスコスクール活動」によって、生徒の当事者意識が醸成されつつある。特に、申請制として自主的な活動を促したことで、多くの委員会から新たな取組が企画された。また、前年度の課題であった、本校以外のユネスコスクールとの連携についても、北海道教育大学附属札幌小学校に、先述のユネスコスクール活動の紹介ポスターを掲示することができた。今後はさらに交流を充実させるとともに、双方向の交流としていきたい。